

## 令和2年度 土浦日本大学中等教育学校自己評価票

本校の目指す学校像	<p>土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い、中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり、社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。</p> <p>(1) 豊かな語学力を習得し、世界の人々と対話のできる日本人を目指します</p> <p>(2) 自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します</p> <p>(3) 複雑化した現代社会を生き抜くために、教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます</p> <p>(4) 読書、絵画、音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き、みずみずしい感性を養います</p> <p>(5) さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人、地球にやさしい人を目指します</p>
-----------	---

本校の特長及び課題	<p>令和2年度学校教育方針『他者を敬う優しい心を有し、自ら考え、自ら行動し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しつつ、学園からいじめを根絶する』ために以下の3点を基本方針に据える。</p> <p>1. 夢を実現する確かな『学力』の育成</p> <p>2. 世界に向かって発信できる『国際力の育成』</p> <p>3. それぞれの分野で、リーダーとして、たくましく活動でき、他者を思いやる優しい心のある『人間力』の育成</p> <p>これらの方針を実現するための実践項目として、次の4点を挙げる。</p> <p>①基本的な生活習慣を全学年、全クラスで確立</p> <p>②他者を敬う優しい心を育む指導の推進（『いじめ』の撲滅）</p> <p>③「学習活動」を軸にした進路指導を強力に展開</p> <p>④日常の教育活動が生徒募集に直結することを念頭に取り組む</p> <p>また、昨年度に引き続き日本大学45%前後の進学者とともに、国公立大学15%以上、難関私立大学25%以上、海外進学者10%前後を目指すため、課外を実施していく。</p>
-----------	---

### 令和2年度の取組結果

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
	・年間行事計画の立案と調整	・年間行事については、コロナ禍のため、大幅な変更となった。ただ、コロナ禍の中でも他校とは異なり、始業式をはじめ、	

<p>教育活動 (教務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割管理</li> <li>・ 各種帳簿管理</li> <li>・ テストの運用</li> <li>・ 課外の計画運用</li> <li>・ 教員研修の計画実施</li> <li>・ 学校評価の実施</li> <li>・ 学校日誌の作成</li> </ul>		<p>いくつかの行事をオンラインで実施することや、国内研修を実施出来た点は評価できる。惜しむらくは、本校の最大の目玉である海外研修が実施できなかった点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割課外授業などの運営においても、オンライン期間ではHP から直接 Zoom の画面につながる工夫をしたり、課外授業を設定したりするなど、学習指導部と一体となり適切な運営を行うことが出来た。</li> <li>・ 転入・転出の処理も含め学年と協力し正確に処理した。</li> <li>・ コロナ禍の中、時期がずれたものの 4 回すべて安定した運用ができた。</li> <li>・ 課外については、コロナ禍の中で縮小したものの、Zoom や Google Classroom などを活用したオンラインでの実施も含めて一定の成果をあげた。</li> <li>・ 教員研修のあり方を検討し、新学力観に応じた対応を検討し、委員会も立ち上げたが、コロナ禍の中で実施に至っていない。</li> <li>・ コロナ禍により、1 回の実施となってしまった。オンラインなどを活用する等、次年度の運用を工夫する必要がある。</li> <li>・ オンライン授業、時差登校など、予定外の事態にも対応出来た。</li> </ul>	<p><b>A</b></p>
<p>学校生活 への配慮 (生徒指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間指導計画の作成と実践</li> <li>・ 日常生活の指導</li> <li>・ 清掃分担の計画運用</li> <li>・ いじめ対策</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間指導計画を作成したものの、多くの面で変更を余儀なくされた。</li> <li>・ コロナ禍の中で生徒の出欠管理の徹底を図り、健康面の確認を行った。また、陽性者が出た際の対応を含めて、日常から生徒の健康について保健所と連携を取ることで安全安心な学校づくりに寄与した。</li> <li>・ 学年団の協力の下、登下校の指導を含め安全に配慮することができた。制服の着こなしについては、ほぼ全ての生徒がしっかりと着こなすことが出来ていた。</li> <li>・ 清掃分担においては混乱無く実施できた。消毒や除菌なども定期的に行い感染防止に努めた。</li> <li>・ 生活実態調査を生徒、保護者に実施し、その都度、会議を招集することで共有をはかり、いじめの芽の段階から対応することができた。また、欠席理由に応じてしっかりと家庭と情報共有することで長欠の防止に努めた。</li> </ul>	<p><b>B</b></p>

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会活動全般の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会の運用については、コロナ禍で大変な中オンラインも活用して、最大限の活動ができるように努めた。</li> </ul>	

<p>生徒会・部活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンハウスの計画と実施</li> <li>・スポーツデイの計画と実施</li> <li>・部活動の管理と運営</li> <li>・スポーツ大会の計画と実施</li> <li>・ボランティア活動の計画と実施</li> </ul>	<p>また、選挙活動については、例年通り実施し素晴らしい形ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Open House では、cluster を用いて本校そっくりの CG を作成し、その中で様々な取り組みを発信するなど、先駆的な取り組みがみられた。</li> <li>・多くの生徒が楽しみにしていた Sports Day が実施できなかった点は大いに悔やまれた。</li> <li>・部活動も、多くの大会が中止となり、子どもたちにとっては目標が立てづらい一年であった。ただ、その中で日々の練習も含めてそれぞれが頑張っている姿が見られた。</li> <li>・スポーツ大会では、担当者が様々な工夫をすることで、皆が楽しみながら活動することが出来た。また、全クラスで応援する姿勢がみられた。</li> <li>・ボランティア活動では、継続的に行われる内容の計画、管理、運営が望まれるが、コロナにより実施できない面もあった。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に関する各種調査の実施</li> <li>・進路講演会の実施計画</li> <li>・高大連携の促進活動</li> <li>・進路情報の収集分析と公開</li> <li>・3つの進路実現のための諸活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の情報処理室と連携し、受験大学及び方式を一元管理し、出願関係資料の作成可否データ処理を行っている。</li> <li>・進路講演会では、学年と協力することで、オンラインを用いるなど生徒対象や保護者対象で学年の希望に応じ、実施できた。</li> <li>・大学見学会も中止となり全体的に残念な結果であった。ただ、学部学科説明会などをオンラインで実施するなど、最低限の取り組みが出来た。</li> <li>・コロナ禍の中でも、入試の変更点をいち早く情報を集め、全体で共有することが出来た。また共通テスト対策も実施するなど、入試の変更点に対応した指導をすることができた。</li> <li>・現時点で、国立大学の後期日程の結果は出ていないが、東京大学にチャレンジしあと一歩のところまで結果を出すことが出来、新たな課題をはっきりと明示することが出来た。コロナ禍の中で全国的に推薦や AO など早期に進学先を決定したい傾向が見られ、本校でも日本大学への進学希望者が殺到したが戦略的に対応することが出来た。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>保健・衛生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な健康診断の実施</li> <li>・健康管理への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康診断については、歯科検診だけは、実施できなかったが、身体測定を分散登校中に実施し、内科検診については時期をずらし秋に実施することが出来、生徒の健康管理に努めることが出来た。</li> <li>・コロナ禍の中、体温測定、手指消毒の徹底をはじめ、生徒の状況によっては、保健所とも連携を深めて安全安心な学校づ</li> </ul>	<p>A</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くりに努めた。</li> <li>・カウンセラーの利用は限られた時間の中でも連携が取れている。今後も利用していない生徒にも利用してもらえるよう周知していきたい。</li> </ul>	
図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書案内の充実</li> <li>・図書館活用率の向上</li> <li>・図書委員活動の活発化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会では、各学年で取り組んでいるブックレビューカードのデータ化が進んでいる。</li> <li>・新書など読書の推進を行っていくため、各教科で紹介を行っていった。また全学年を通じて読書習慣がつくよう努力している。</li> <li>・相変わらず、受験参考書を中心に、不明図書の増加が問題となっている。</li> </ul>	B
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1076名の志願者と147名の入学者確保</li> <li>・多面的な広報活動の実施</li> <li>・多岐に渡る学習履歴の生徒の選別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺私立の生徒数減少に対して志願者数が1000名を越え、入学者147名を確保した。県南の私学の中では、江戸取、茗溪、土浦中等の3校が中心となる形ができた。</li> <li>・今年度は、いち早くオンラインでの広報を行えた点、昨年度の合格実績、そしてコロナ禍での多様な入試が功を奏した。</li> <li>・今年は、コロナ禍対応のAO入試、3種類の運用力入試、茨城型SAT、千葉型SAT、推薦入試、2回の一般入試、新学力型入試などで県外を含め、評判が広がり入学者増につながった。</li> <li>・その中で水戸地区の入学者減が目立った。</li> </ul>	A

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方針の浸透</li> <li>・校務分掌機能の円滑化</li> <li>・企画管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・slack や Zoom を用いて主任間で連携を取ることが出来る。また、オンライン授業の期間においても各分掌に指示を出すことが出来、スムーズな登校期間への移行が出来た。</li> <li>・両教頭が担当する分掌をまとめ、各分掌に対して問題解決に関わる指導助言を与えた。</li> <li>・いち早くオンライン授業を開始し、その後 Google Classroom をはじめとしたオンライン学習の充実、夏期の特別授業の実施など、今年度の様々な活動が他校に比して十全に執り行うことが出来た。</li> <li>・行事に関わる折衝、対外的な対応を含め、緊急時における予算、人的資源の配置などを行った。</li> </ul>	A

庶務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災，環境美化の推進</li> <li>・ 保護者と教師の会の充実</li> <li>・ 同窓会組織の運営</li> <li>・ 各儀式の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員室内の会議室，学習スペース，給湯室を中心に美化に努めた。教員の机上については年度末に近づくに従い，整理出来ていない状況が目立つ。</li> <li>・ 保護者と教師の会は，コロナ禍の中で十分に機能を果たすことが出来ず忸怩たる思いがあるが，年が明けてからはオンラインを用いて多くの情報を共有出来た。</li> <li>・ 同窓会の活性化は，懸案事項となっている。</li> <li>・ コロナ禍の中，参加者を制限せざるを得なかったとはいえ入学式，卒業式に対して入念な準備と折衝，及び予行を通じて厳かな中にも本校らしい儀式の運営に成功した。</li> </ul>	B
学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期課程</li> <li>・ 後期課程</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習面で，太田主任がリーダーシップを取り前期課程での模試を含めて学習面で新たな動きが見られた。また，コロナ禍の中で様々な不安を持つ生徒たちの欠席が目立ったが，学年の声掛けや保護者の協力を得ることで，欠席者が減少し通常以上の活気が戻った。</li> <li>・ 5 学年では年末年始及び春休みに学習会を行うなど受験に向けての学力向上の意識が醸成されている。それを受けて4 学年でも学習において，上位層だけでなく下位層にも手厚い対応を行う動きが生まれた。6 学年は受験において秋口は日本大学の合格者を出すために，様々な工夫を用いて，不合格者が多数出た今年度の推薦入試の中，最大の成果を出した。また，受験においては東京大学に2名の受験者が出たため，全教科が一丸となり手厚い対応を示した。惜しくも合格には一歩足りなかったものの，今後同様の状況には対応できる体制を示した。</li> </ul>	A

達成 状況 評価 基準	A	取組目標が十分達成された	「よくできている」「できている」割合が 90%以上
	B	概ね達成された	「よくできている」「できている」割合が 80%以上
	C	課題を多く残している	「よくできている」「できている」割合が 70%以上
	D	成果が出ていない	「よくできている」「できている」割合が 70%未満